

12

プリントアウトした請求票は、所蔵部署階のカウンターにお持ちください

2011年01月06日 11:37:28

2011年01月06日 11:37:28

入館証番号:

入館証番号:

Call Slip

<請求票>

Call Slip

9202
9

<請求票> (控)

資料名 : 近代支那の学芸

巻次 :

著者名 : 今関寿麿 // 著

出版者 : 民友社 頁数 : 594p

大きさ : 23cm 出版年 : 1931

書名
資料名 : 近代支那の学芸
巻次 :
著者名 : 今関寿麿 // 著
出版者 : 民友社
出版年 : 1931
大きさ : 23cm
頁数 : 594p

所蔵館 : 中央

所蔵部署 : **1階資料お渡し・返却カウンタ**

所蔵館 : 中央

所蔵部署 : **1階資料お渡し・返却カウンター**

配置場所 : 1/66A 中)B1書庫A

資料ID : 1127096794

配置場所 : 1/66A 中)B1書庫A

資料ID : 1127096794

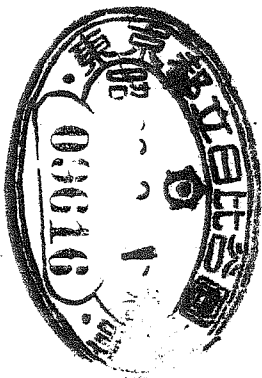
請求記号
9202
9

一社人自東新	力	事
↓		
一社人自東新	請求	報告
MB1 マイカ B1 アルファベット	原紙	縮刷
MB2 マイカ B2 洋	中	朝
行 1F B1 B2		
多 児 青 1F B1 B2		

③ 1-13

序

私は淺學短才を顧みず、猥りに支那學術の探討と現代支那の實情を目撃せんと思ひ立ち、大正七年北京に入りて以來研究室を設け、十萬卷の書籍を購ひ、務めて交游を廣くして各方面の人物を知り、屢々遠游を試みて、北支地方は勿論、長江沿岸は特に意を用ひて視察し、またその間に在りて、政治、經濟、社會、人物、學問、藝術等に関し、見るところを記して、知己先輩に頒つもの、都べて三十餘種に及んだ。然るに三四年來、支那の形勢激變して、北京は瞬く間に廢都となり、加ふるに老親相尋いで病歿し、一身の環境も激變を生じ、爲めに宿志頓挫の状態となつた。そこで藏書を點



檢し草稿を整理して、一先づ仕事の段落を附けんとするに至つた。本書の印刷は、その段落の一つである。本書に收めたものが、何れも曾つて印刷したものである事は、出版を容易ならしむる爲めであつたが、校正中に眼を患へて、荏苒時日を延ばすに至つたのは、洵に思ひ設けぬ事であつた。私は本書以外に印刷したものの、よみにても大約二千頁の記述を所藏し、また今猶ほ草稿に屬するものが二千頁程もある。是等を補修完成して、引續きに印刷したいと思ふけれど、何分一書生の分際としては困難である。萬一、本書の印刷に差したる缺損もなかつたならば、繰返して出版したいと思ふ。回顧すれば、私が北京に入つた當時は、我國の支那學界は舊幕以來の學風を維持し、現代支那の觀察にも、

一方面に偏倚したものであつたが、近日になるに従つて二つとも餘程變化し、漸次その實際に觸れんとしつゝあるのである。そも、日支兩國は接壤地たる上に、二千年來の緊密なる關係がある。一千年以前に在つて、兩國は息々相通じたのに拘はらず、萬事發達したる今日に於て、却つてその反對となつて居る。しかも遠距離なる歐米とは何等隔膜の遺憾なき状態に在るではないか。是れ云ふまでもなく、世界の趨勢に依るもので、明治大正時代に在つては、已むを得ぬ次第であつたが、形勢頓に一變した今日に於ては、隣邦支那を間却輕視する事は到底出來ぬ。それが現に支那に對する變化となつて現はれつゝあるのである。私は兎に角、日支接觸の第一線に立ち、この形勢の推移を目

近代支那の學藝

目次

清代及び現代の學術界……………	一
清代の學術界……………	一
現代の學術界……………	二二
浙東の學風……………	二八
一 清代以前に於ける浙東の學風……………	三三
二 清代に於ける浙東の學風……………	三九
清代及び現代の詩文界……………	五七
清代の文章界……………	五七

撃して、兩國が何時しか息々相通じ、誤解に富んだ關係が改善せられ行く確信を持つものである。而して北京在住の無意義でない事を體驗して、聊か自ら慰むる次第である。

綠陰軒庭を埋めて午寒を覺ゆる時

燕山草堂の八月雙清處に於て

天 彭 生 識

顧炎武(亭林).....	六〇
黃宗羲(梨洲).....	六二
王夫之(船山).....	六六
侯方域(雪苑).....	六九
魏禧(叔子).....	七一
汪琬(堯峰).....	七二
桐城派.....	七四
方苞(望溪).....	七五
姚鼐(姬傳).....	七八
曾國藩(滌生).....	八二
吳汝綸(擊甫).....	八六
陽湖派.....	八九
譚敬(張惠言) 李兆洛.....	八九
兩派以外の古文派.....	九三
龔自珍(定庵).....	九六
魏源(默深).....	九九
支那現代の文章界.....	一〇三
桐城派.....	一〇三
柯劭忞(鳳孫).....	一〇三
馬其昶(通伯).....	一〇六
長江一派.....	一一〇
章炳麟(太炎).....	一一一
廣東一派.....	一一四
康有爲(南海).....	一一五
梁啓超(任公).....	一二〇
清代の詩界.....	一二四

錢謙益牧齋 一三一

吳偉業梅村 一三四

朱彝尊竹垞 一三七

王士禎漁洋 一四〇

沈德潛歸愚 一四三

袁枚隨園 一四六

趙翼甌北 一四八

厲鶚樊榭 一五〇

鄭珍子尹 一五三

李慈銘菴客 一五四

王闓運湘綺 一五五

現代の詩界 一五八

樊增祥一派 一五九

樊增祥(樊山) 一五九

王士禎一派 一六一

王樹枏(晉卿) 一六一

王闓運一派 一六三

同光體詩派 一六四

閩派 一六四

陳寶琛(毅庵) 一六四

鄭孝胥(蘇庵) 一六五

陳衍(石遺) 一六八

閩派以外の同光體先達 一六九

沈曾植(子培) 一七〇

陳三立散原 一七二

康有為南海 一七四

錢謙益牧齋 一三一

吳偉業梅村 一三四

朱彝尊竹垞 一三七

王士禎漁洋 一四〇

沈德潛歸愚 一四三

袁枚隨園 一四六

趙翼甌北 一四八

厲鶚樊榭 一五〇

鄭珍子尹 一五三

李慈銘菴客 一五四

王闓運湘綺 一五五

現代の詩界 一五八

樊增祥一派 一五九

清代及び現代の駢文界……………一七七

一 駢文とは何……………一七七

二 駢文の變遷……………一八二

三 清代の駢文界……………一八八

イ 清初の駢文界……………一八八

陳維崧(其年)……………一八九

毛奇齡(西河)……………一九三

ロ 乾隆時代の駢文界……………一九五

胡天游(稚威)……………一九五

袁枚(隨園)……………二〇〇

邵齊燾(叔子)……………二〇三

劉星煒(圃三)……………二〇四

孔廣森(笥軒)……………二〇七

吳錫麟(穀人)……………二一〇

曾燠(賓谷)……………二一三

孫星衍(淵如)……………二一六

洪亮吉(雅存)……………二一七

汪中(容甫)……………二二〇

ハ 嘉慶以後の駢文界……………二二三

劉開(孟鑿)……………二二六

董基誠(子詵)……………二二八

董祐誠(方立)……………二二九

方履籟(方聞)……………二三四

梅曾亮(伯言)……………二三七

周壽昌(荇農)……………二三八

三清代の詞界……………二七〇

甲、清初及び康熙の詞界……………二七〇

イ、朱彝尊と陳維崧……………二七〇

ロ、清代詞界の前十家……………二七六

李燾(舒菴)……………二七六

沈謙(去矜)……………二七七

宋徵輿(轅文)……………二七八

錢芳標(葆初)……………二七九

彭孫遹(羨門)……………二八〇

王士禛(漁洋)……………二八一

顧貞觀(梁汾)……………二八二

沈豐垣(遜聲)……………二八三

納蘭性德(容若)……………二八五

清代及び現代の詞界……………二五七

一詞の話……………二五七

詞譜……………二五七

詞韻……………二六二

一詞の起源及び清代以前の詞界……………二六三

ニ、清末の駢文界……………二四六

王闓運(王秋)……………二四六

王先謙(益吾)……………二四九

ホ、現代の駢文界……………二五二

傅桐(味琴)……………二四〇

趙銘(桐孫)……………二四一

李慈銘(維客)……………二四三

乙 乾嘉以後の詞界……………二八六

イ 浙 派……………二八七

厲鶚(癸樹)……………二八七

吳錫麒(毅人)……………二九〇

郭麐(頻伽)……………二九三

ハ 常州派……………二九四

張惠言(臯文)……………二九五

周保緒(止齋)……………二九八

項鴻祚(蓮生)……………三〇一

蔣春霖(鹿潭)……………三〇三

譚獻(復堂)……………三〇七

蔣敦復(劍人)……………三〇九

ハ、清代詞界の後十家……………三一

龔自珍(定庵)……………三二二

張琦(翰風)……………三二三

許宗衡(海秋)……………三二四

姚燮(梅伯)……………三二五

王錫振(少鶴)……………三二六

丙、清末の詞界……………三二七

王鵬運(幼遐)……………三二八

鄭文焯(叔問)……………三三〇

文廷式(芸閣)……………三三二

丁、現代の詞界……………三三四

朱祖謀(古微)……………三三五

況周頤(夔笙)……………三三七

附録 現代に於ける詞界の大勢……………三三〇

日本流寓の明末諸士

三三五

一、千百年眼の著者

三三六

二、朱舜水

三四三

甲、日本永住以前

三四三

乙、泊舟稿

三七八

三、獨立和尙

三八二

甲、戴耘野の人物

三八七

乙、獨立和尙の人物

三九七

四、陳元贊

四一四

五、張非文

四二一

附録、張斐筆語

四四九

六、黃梨洲の日本乞師

四五五

元明の八大畫家

四七五

一、黃大痴黃公望

四七五

二、梅花道人吳鎮

四八七

三、黃鶴山樵王蒙

四九四

四、倪雲林倪瓚

五〇三

五、沈石田

五二二

六、文徵明

五四一

七、唐伯虎

五七一

八、仇十洲

五八四